

地域提案型

平成18年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	インドネシア
2. 事業名	スラバヤ市水質管理能力向上
3. 事業の背景と必要性	スラバヤ市では、急速な工業化及び都市化の進展に伴い、生活排水・工業排水量が急増している。しかし、下水道が整備されておらず、発生する汚水は未処理のまま河川に放流されている。このため、同市を流れるカリマス川は汚濁が進行し、インドネシアの水質基準を満たしていない状況になっている。また、環境モニタリング体制が未整備で独自のラボを持っていないため、分析は国の衛生環境技術研究所に依頼している状況である。このため、適切なモニタリングやデータ解析が行われておらず、効果的な対策が実施できていない。スラバヤ市は、カリマス川周辺の道路、橋、遊歩道などのインフラ整備を行い、街のシンボルとして市民や観光客が憩う空間を造ろうとしているが、水質改善については具体案がないことから本市に協力を依頼してきた。本市は環境保全に関する多くの経験と技術を有しており、これを活かして技術協力を行うものである。
4. 事業の目的	スラバヤ市水質保全担当者の、モニタリング、データ管理能力、水質改善政策立案能力を向上させる。
5. 対象地域	スラバヤ市
6. 受益者層	スラバヤ市およびその市民
7. 活動及び期待される成果	<p>(1年次) スラバヤ市に本市の専門家を派遣し、モニタリングの課題の整理、汚濁負荷の排出源調査、既存の水質汚濁対策の評価等の作業を通じて、スラバヤ市担当者にノウハウを移転する。また、スラバヤ市の水質保全担当者を研修員として受け入れ、現地での調査を基に、必要な水質モニタリング手法及びデータ解析の研修を行う。</p> <p>(2年次) スラバヤ市の環境政策担当者を研修員として受け入れ、水質改善のための対策立案や実施のためのノウハウを学び、具体的な改善策を立案する。スラバヤ市に本市の専門家を派遣し、1年次に受け入れた研修員への補完的な技術指導を行い、現地に適したモニタリングマニュアルを作成するとともに、研修員が策定した改善策について実施可能性などを検討する。最後に、改善案の確実な執行のため、スラバヤ市で事業の成果報告会を実施する。</p>
8. 実施期間	平成19年度～平成20年度
9. 事業の実施体制	北九州市環境局が連絡調整機関となり、(財)北九州市国際技術協力協会(KITA)等と協力し事業を実施する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名(提案自治体)	北九州市環境局(福岡県北九州市)
2. 対象国との関係、協力実績	平成9年から環境協力を開始し、JICAの自治体枠研修や国民参加型専門家派遣などを通じて、廃棄物処理等の技術協力を行ってきた。平成16年度からは、市内NGOのKITAが中心となって堆肥化技術移転を行うなど、行政、NGO等幅広い協力を続けている。